

解説

# 推進工法の夢と期待

やすだ かすなり  
安田 一成

ヤスタエンジニアリング(株)  
海外事業本部専務取締役

## 1 はじめに

推進工事が1948年に日本で初めて施工をされてから73年が経ちました。当社は今年創業46年となり、私が推進工法に携わって約20年が経とうとしています。

皆さんもご存じのように戦後復興の1950年代は開削工法が主体でしたが都市化が進んだ1960年代から推進工法の採用が徐々に広がりました。

最初の推進工事は尼崎の軌道下横断と聞いていますが、それを皮切りに推進工法が普及し、1970年代では100mも押せば長距離と言われていたのが、泥濃式の登場により急速に推進技術が発展し、現在では1,000mを超える施工やR=15mの急曲線施工まで可能な時代になりました。その技術革新に伴い推進専門業者も発展していきました。

ところが1999年をピークに推進工事量が右肩下がりに激減し、推進業者の業績も落ちていきます。

少子高齢化で人口も税収も減少し、社会保障費は増大し、結果公共投資も減少していき内需が低迷するという負のスパイラルという状況の中で、推進工事も下水道普及率が上がるに従い年々工事量が減少し、将来が見通せない状況になっていました。

この暗い業界を将来復活させるためには海外進出しかないと考えようになりました。ただ一概に海外進出と言ってもどうすれば良いのか分かりませんでした。「とに

かく海外に行くしかない!」と思い機会を窺っていました。

## 2 海外進出のきっかけ

私の海外進出のきっかけは台湾でした。2003年頃だったと記憶していますが、建設機械レンタル大手のアクティオから「台湾で推進工法を主体とした下水道整備が行われるので一緒に展開しませんか」という話がありました。台湾事情は全く知りませんでしたが、アクティオからの話なので二つ返事で「はい!」と答えました。

それと並行して韓国進出の話もありました。

弊社と付き合いのある建設会社から韓国でこれから推進工事を展開したいとの打診があり、弊社もその話に乗ることにして現地法人も設立しました。

国内では、当時まだ弊社は(社)日本下水道管渠推進技術協会(現(公社)日本推進技術協会)に加盟していなかったため、まずは推進業界との交流を図らないと支援が得られないと思い、入会させて頂きました。

そこで当時の石川専務理事と(株)LSプランニングの小田氏と出会い、僕の海外進出の思いを語らせて頂きましたところ、共感して頂き、技術面を含めた色々なサポートをして頂けることになりました。

台湾進出を決めてから、アクティオと二人三脚で模索しながら営業活動を行っていたところ、高雄で同時期に台湾展開をされていた機動建設工業(株)の社長で(社)日

本下水道管渠推進技術協会の会長でもあられる中野氏と台湾機動総経理の刈谷氏と偶然にお会いできました。場所が飲食店だったので後日改めてご挨拶させて頂きまずと申し上げその場を後にしました。

元々機動建設工業(株)とは仕事の取引をしていましたが、工事量が減っていく中で付き合いが疎遠になっていました。



写真-1 2013年日推協台湾視察時  
前列左から2人目が筆者、その右隣が中野氏  
その右2人目が石川氏、後列中央が刈谷氏



写真-2 台湾台中での推進工事施工状況

後日、大阪の機動建設工業(株)本社に伺い、「国内ではライバルであり、受注競争もありますが、海外は協力をしあっていきましょう!」と中野社長にお話をさせて頂いたところ、「分かった、一緒に協力をして頑張ろう!」という快いお返事を頂きました。

このように台湾での偶然の出会いから機動建設工業(株)との海外展開の付き合いが始まりました。

韓国では現地法人を立ち上げ台湾も出張ベースで展開をしていき、それなりに受注もありましたが、両国ともそれなりに同業者がいたので安定的な受注とはなりませ

んでした。

そこで、ブルーオーシャン（推進工事会社が存在しない国）に展開をしようと考えてようになりました。

2010年に弊社の韓国法人のスタッフからベトナム人を紹介したいということで会うことになりました。

彼から「一度ベトナムを見てみませんか?」と勧められて旅行のつもりで渡越することにしました。

ホーチミンへ発つ前日に当時の前原国土交通大臣が「ベトナムで下水道整備を行います!」と発言されたニュースをたまたま視たので翌日からのベトナム旅行が視察に変わりました。

その後、国交省とベトナム建設省が「下水道整備に関する技術協力」という覚書を交わし、日本国がベトナムに対して下水道整備を全面的にバックアップすると宣言しました。このようなことが偶然にも重なり、次はベトナム進出と決めました。

そしてベトナム進出をしてから2年後の2012年に当時の石川専務理事からインドネシアのジャカルタでODA下水道整備の計画があると聞き、元下水道事業団で現在はJICA 職員の山本氏の紹介までして頂きました。山本氏はジャカルタ下水道プロジェクトの担当であり、このプロジェクトには推進工法が不可欠だとおっしゃっていました。そこで山本氏から「ジャカルタで推進工事があるので興味があるか!」と聞かれたので「はい、あります。」と即答しインドネシアに進出することになりました。

このような流れで海外進出を始めましたが、正直弊社は中小企業なので人材も予算も豊富ではありません。そこで色々情報を集めながらチャンスを窺ってきましたが、やはりヤスタ単独では限界がありました。

### 3 海外で学んだこと

韓国や台湾では地元建設会社の下請けとして施工していました。立坑が完成した時点で施工班と機材を持ち込めばよく、金額が小さいこともあり支払いの遅延などの問題等もあまりありませんでした。

インドネシアでは「ジャカルタ特別州チリウン川地下放水路建設事業」を地元有力ゼネコンの下請けで機動建設工業・イセキ開発工機と弊社の3社JVで施工しまし